

## 市民文教委員会 市内現地視察②報告

提出日 令和2年 8月 7日

提出者 市民文教委員会委員長 眞下隆史

日時： 令和2年8月3日（月） 14：30 ～ 16：00

視察先： 木質バイオマス発電所

（対応者）林ベニヤ産業(株) 社長様

林ベニヤ産業(株) 舞鶴工場長様

林木材工業(株) 舞鶴工場長様

場所： 林ベニヤ産業(株)舞鶴工場、林木材工業(株)舞鶴工場

参加者： 眞下委員長、小谷副委員長、石束委員、鴨田委員、川口委員、田村委員、水嶋委員、事務局書記

【委員外議員】 上羽議長、伊田議員、小杉議員、小西議員、杉島議員、高橋議員、谷川議員、田畑議員、松田議員、(当日欠席：西村議員)

### 『調査内容』

#### 木質バイオマス発電所の稼働状況と原料木材確保状況の調査

- ・ 林ベニヤ産業(株)の会社説明
- ・ 木質バイオマス発電所建設の経緯説明
- ・ 原料となる木材確保の状況説明
- ・ 木質チップ生産工場の見学
- ・ 木質バイオマス発電所の見学

### 『委員からの所管等』

- 未利用材の燃料活用により、間伐材の放置抑制や、費用対効果から手入れがなされないことなどに起因する山林荒廃阻止の一助となるとともに、林業従事者への財政面でのサポートにつながっていくことが再確認できた。また、林業従事者及び資源としての山林を将来にわたり支援できる体制を維持する必要性を再確認できた。
- 再生可能エネルギー・バイオマス発電とは、直接燃料・熱分解ガス化・生物化学的ガス方式等が代表的で、林ベニヤ産業(株)では、木材を燃焼させて水を沸騰させ、水蒸気でタービンを回し発電する直接燃焼方式が採用され、燃料となる木材の供給が容易であれば、必要に応じて発電量がコントロールできる秀でた特徴がある。燃料供給に有利な条件を満たす御社では、自社工場から出る合

板端材のチップで 85%の安定供給が可能であり、残りを間伐材「未利用材」「林地残材」を有効活用され、「エネルギー基本計画」に位置づけられるバイオマス発電のモデルともいえるもので、「地方創生」の一環を見ることができた。

- 一般的には、木材が燃料として使用できるまでのコスト面が問題で、木材の購入費・運搬費・チップ化の生成費が大きいと聞いているが、本市の御社木質バイオマス事業では、企業の強みを最大限に活かした取組で、目指される「サステナブル社会」「持続可能な社会」の意気込みを感じた。
- 資材の準備段階から、チップの材料である未利用材は、舞鶴市を含む京都府内から約 50%しか収集できそうになく懸念されていたが、45%がその状況にあることが確認でき、このことは今後も事業を継続していく上からも、重要な課題であると考えている。
- 最終工程の灰の処理であるが、以前は敦賀まで搬送していたが、手間等を考えるとあまり儲けがなく、現在は破棄処分をしていると説明があった。昔は肥料として畑に使用されていたと聞き、今後肥料としての需要があるかどうか調査する必要があるが、本市の農業関係者にも喜んでもらえるような利用方法を検討調査するのも一見の価値があると思う。
- 木質バイオマス発電を行うための燃料となる木材については、「府内の木材が不足している。」との代表の言葉にあったように、府内唯一の木質バイオマス発電として、地産地消が満足に実現できていない点を残念に思う。そもそも合板会社であることから、合板作製の工程で発生する木片がメイン燃料であり、発電資源が枯渇することはないとの話であったが、やはり林業が衰退している現状の中で、森林がある地域の活性化に貢献できる可能性を活かしきれていない点はいまいち感じている。
- 材料として未利用材の比率を上げたいということだが、地域の未利用資源を燃料として導入することは、雇用の創出につながると考えられる。間伐材の収集運搬・経済面における多数のプラス効果を見込めると考える。
- これまでの課題をクリアするためには、地域ぐるみの連携を図る必要があり、地域に根ざしたライン形成を行うためには、「会社と地域をつなぐこと。」このことこそが行政にできる役割ではないかと考える。いずれにせよ木質バイオマス発電所の存在は、地域の課題となっている里山整備の救世主になり得るため、今回の視察は、今一度林業を見直すきっかけとなった。
- これまで市民の方から「御社から黒い煙が出ている。」とお聞きしているがとの質疑に、「以前使用していた旧式ボイラーから、今回バイオマス発電の熱利用に変更したため、現在は大丈夫です。」と返事をいただき、安心した。

- 私自身初めて自然エネルギーの全工程を見せていただき、驚きと感動があった。舞鶴の木材受け入れが一番よいとお聞きし、もっと森林組合で伐採をする人材を増やし搬入できれば、御社にとっても、また、舞鶴の住みやすい環境づくりにおいて有効と感じる。そして、安心な自然エネルギー事業が今後増えていく事を強く願う。
- 御社の木質バイオマス発電については、その詳細や事業内容をお聞きし、合板用材の集荷状況や未利用材の集荷など課題がある中、これからの林業活性化に向けた取り組みが重要である事について、理解が深まった。
- 現場の視察によって、騒音問題・臭気の問題などを含め、集中制御室での効果的な運用をされていることが分かり、大変有意義な視察であった。本市として、林業活性化に向けた取組については、京都府産材が不足している現状を踏まえ、今後とも地産地消ができるよう具体的な施策の必要性を感じた。
- 林ベニヤ産業株式会社様におかれましては大変お忙しい中、また、世間がコロナ禍の現在において視察の対応をいただき、誠に有難うございました。



以上、大変お世話になりました。